



これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただくことができます

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

※毎週月曜日発行予定です

「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介③

今号は、県少年の主張大会（尾花沢大石田地区）に出場した、尾花沢中学校3年の横山千咲さんの内容を紹介します。千咲さんの主張は「優秀賞」に輝きました。

■「『推し』から新しい世界へ」

皆さんには「推し」がいますか？「推し」とは、人に薦めたいと思うほどに好感を持っている存在のことを言います。私にも、私を新しい世界に連れて行ってくれた「推し」がいます。紹介します。

平沢進、アーティスト。今年で70歳になりました。

彼に出会ったのは、動画サイトでたまたま見つけた一つの動画がきっかけでした。辞書からそのまま書き写したような知らない単語の羅列、何の楽器かの判別もつかないようなメロディーの波。いわゆるテクノポップにも収まらない、ジャンル「平沢進」としか言いようのない楽曲。全くの新感覚の音楽に、私は一瞬で虜になりました。

平沢進は、知れば知るほど魅力的な人でした。どこか懐かしいのに新しい旋律、造語も織り交ぜた難解な歌詞。ステージを自転車で横断したり、金属切断用の工具すら楽器として使用したりと、自分の世界観を表現するためにどこまでも行うパフォーマンス。それでいてなお新しいことに挑戦し続け、決して流行に流されることのない姿勢。何をとっても興味深く、次々と調べる私の胸に、一つの思いが表れ始めました。

「この人のライブに行ってみたい。」

しかし、考えてみてください。1970年代から活動する、高齢のアーティストです。ファンの年齢層を考えると、私のような人はきっといません。私だけ「浮く」んじゃないか。そんな不安が頭をよぎりました。それでも、この曲やあの曲が聞けるなら。はるかにその楽しみが勝り、気付けばチケットを応募していました。

ライブ当日。最初から最後まで、ずっと夢見心地でした。普段からずっと聞いてきたあの旋律が、鼓膜を破らんといい勢いで体の内側まで響き渡りました。今、この人の音楽を、本人がいるこの会場で、全身で感じることができている。平沢進に出会えてよかった。いつ思い出しても、そう思える貴重な体験でした。

よく、私が平沢進の話をする時、周りにはこんな反応をされます。

「変わっているね。」

「独特だね。」

どこかマイナスな響きをもつこの言葉たち。これを聞くと私はどこかもやました気持ちになります。

「変わっていることって、問題なのか？」

「というか、そんなに変わっているか？」

このことに限らず、よく日本人は、人と違うことを怖がる、不安がるという話を聞きます。今思えば、ライブに行く直前の私もそうでした。でも、今私はこう思います。

「変わっていることを理由にするなんて、もったいない！」

周りが誰も知らないことや周りが好きなものとは全然違うものの先には、誰も知らない驚きや良さがあるのです。きっと私は、平沢進に出会わなければ、ライブの楽しさもアイドルには到底できないステージングも、それらを現地で見ることの素晴らしさも知らなかったことでしょう。誰も知らないものを「推す」ことをためらわなかったからこそ、今の私があります。知らない世界に一步踏み出すことで、自分の視野がどんどん広がり、楽しくなるのです。

人生において、何かに熱中することは、人生に彩りを与えたり、生きがいを与えたりする材料になります。そして、「推し」は何だってかまわないのです。私のようにアーティストであったり、俳優やアイドルだったり、時にはものや仕事でもありかもしれません。大切なのは、人と違うことをタブー視せず、知らない世界に思い切って踏み出すこと。それさえできれば、きっと思いもよらぬ方向に視野が広がり、新しい世界が見えてくることでしょう。小さな出来事がきっかけでもかまいません。皆さんも「推し」を見つけて、自分の世界を広げてみませんか？



【担当】尾花沢市教育委員会 ともども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330